



# 大豆播種前研修会 ～雑草対策編～

令和5年5月  
JAたがわ麦・大豆部会  
田川普及指導センター



# はじめに

**雑草発生**

養分・光の競合  
による生育抑制

茎を徒長させ  
倒伏を助長

収穫の妨げ  
汚損粒の発生

残存雑草の種子  
翌年以降の発生



雑草の発生は様々な問題を引き起こします



- 雑草との**光や養分の競合**はダイズの生育を抑制し、減収させます
- 光の競合の中で**大豆の茎を徒長させ、倒伏の要因**となります
- 繁茂した**雑草は収穫の妨げ**になる他、**雑草の茎や実が収穫物に汚れとして付着**し、外観品質の低下を招きます
- 雑草の種子には**寿命が数年ある**ものや稲作で**湛水状態にしても死滅しない**ものがあるため、次の大豆作でも発生してきます



**今作で雑草を残さず防除することがとても重要！**

# 雑草防除のポイント

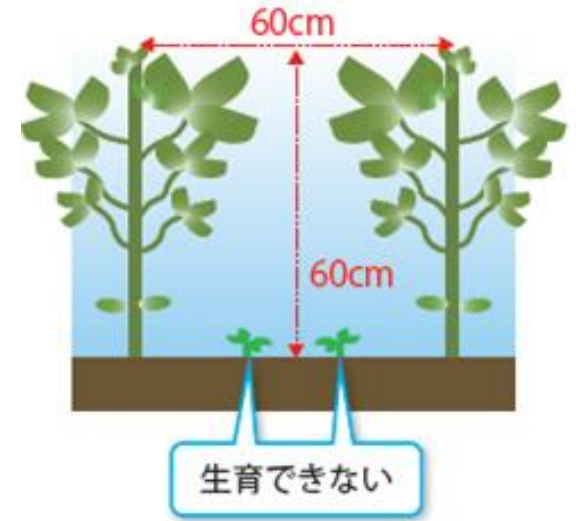
## 抑草（大豆で雑草を抑制）

大豆が生育して条間を覆ってしまえば、

**雑草は生育できない**

→適期播種による苗立ちの確保

→大きくなるまでの除草が重要



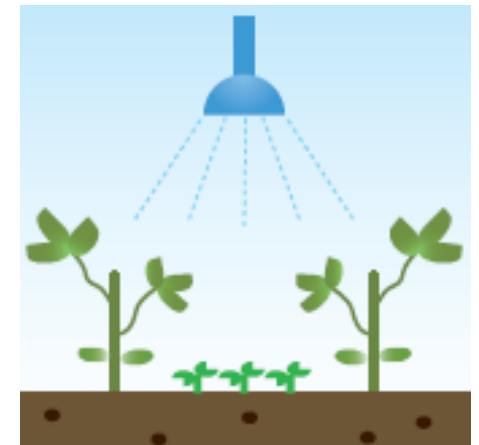
## 除草

- 化学的防除（除草剤）

→**雑草を知って適期の除草**

- 耕種的防除（中耕培土）

**-最後は手取りして種を残さない！**



雑草防除のポイントは2つあります。「抑草」と「除草」です。

○**抑草**は大豆で覆ってしまい、日を遮り雑草の生育を抑えることです。多くの**雑草は光の量が半分になると正常に生育できなくなります**。その基準は**大豆の草丈の長さが条間以上になるまで**です。そのため、抑草できる大きさになるまでの除草が重要になります。また、**大豆の生育ムラや欠株があると抑草の効果が下がるので、安定した苗立ちの確保も大切です**。

○**除草**は、化学的防除と耕種的防除があります。化学的防除には除草剤を使います。**雑草によって効果のある除草剤が異なるので、ほ場にどんな雑草が発生しているかを把握**しておく必要があります。各雑草に適応する除草剤はこのあと説明します。

次に耕種的防除です。これは栽培管理により防除を行っていくことです。**中耕培土は耕うんによる条間の雑草抑制と土寄せによる株間の雑草抑制に効果があります。それでも残った雑草は手取りします。**

**⇒抑草の効果が出るまで除草することが重要です**

# 雜草別（化学的）防除方法

# イネ科雑草... ビエ・アゼガヤ・オヒシバ・メヒシバがある



## 除草剤・処理時期

- 播種後除草剤

**ラクサー乳剤**

播種後出芽前

- 中期除草剤

**ポルトフロアブル** (補正)

大豆生育期 イネ科雑草の3～10葉期

まず、イネ科雑草です。

**ヒエ類**や**アゼガヤ**などがあります。

播種後の土壌処理除草剤としては、イネ科と広葉雑草に幅広く効果のある**ラクサー乳剤**が有効です。

イネ科雑草対策としての茎葉処理剤としては**ポルトフロアブル**が有効です。**イネ科雑草の10葉期まで使用できる**ので、かなり大きくなったものにも有効です。大豆バサグラン液剤等を混用した場合は、薬害が出るので、できるだけ混用は避けましょう。



# キク科雑草…種が衣服にくっつくのが特徴



アメリカセンダングサ



オナモミ

## 除草剤・処理時期

- 播種後除草剤

**ラクサー乳剤 + (フルミオWDG)**

播種後出芽前

- 中期除草剤

**大豆バサグラン液剤** (補正)

本葉 2 ~ 3 葉期 全面散布

**ザクサ液剤** (補正)

本葉 6 ~ 8 葉期 畦間株間散布

次にキク科雑草です。

この仲間には、**アメリカセンダングサ**や**オナモミ**などがあります。種が特徴的で、くつき虫などと言われたりしますが、衣服につくとなかなかとれない雑草です。

播種後の土壌処理剤として**ラクサー乳剤**が有効です。発生が多いほ場には広葉雑草に効果の高い**フルミオWDG**を加用しましょう。

中期の茎葉処理剤としては、**大豆バサグラン液剤**が有効です。雑草が出そろった本葉 2 ～ 3 葉期ごろ処理するといいいでしょう。その後は、ザクサ液剤がありますが、こちらは畝間株間処理になり、専用の機械が必要です。



# タデ類…大型化する 湛水しても種子は生存できる



オオイヌタデ

## 除草剤・処理時期

- 播種後除草剤

**ラクサー乳剤** + **フルミオWDG**  
播種後出芽前

- 中期除草剤

**大豆バサグラン液剤** (補正)  
本葉 2 ~ 3 葉期 全面散布

**ザクザ液剤** (補正)

本葉 6 ~ 8 葉期 畦間株間散布

次はタデ類です。

大豆が見えなくなるくらい**大型化**します。

**湛水土壤中でも種子が生存できる**ため、近年発生が見られたほ場では、今作でもいるものと思って対策を行いましょう。

播種後の土壌処理剤として**ラクサー乳剤**が有効です。

発生が多いほ場には広葉雑草に効果の高い**フルミオWDG**を加用しましょう。

中期の茎葉処理剤としては、**大豆バサグラン液剤**が有効です。

雑草が出そろった本葉 2 ～ 3 葉期ごろ処理するといいいでしょう。

その後は、ザクサ液剤がありますが、

こちらは畝間株間処理になり、専用の機械が必要です。



# ケイトウ類…大型化する 汚損粒の原因 大量の種子を生産する



ホソアオゲイトウ



ノゲイトウ

## 除草剤・処理時期

- 播種後除草剤

**ラクサー乳剤** + **フルミオWDG**  
播種後出芽前

- 中期除草剤

**アタックショット乳剤** (補正)  
本葉 2 葉期～開花期

**ザクサ液剤** (補正)  
本葉 6 ~ 8 葉期 畦間株間散布

次はケイトウ類です。

ホソアオゲイトウやノゲイトウがあります。

**大型化し、大豆収穫の障害となり汚損粒の原因**となります。

ホソアオゲイトウは1花穂で7000粒以上の種子を生産することから、一旦発生すると次年度以降の蔓延にもつながります。

また、**ホソアオゲイトウの出芽期間は長期**にわたります。

出芽深度は3 cm程度と浅いです。

播種後の土壌処理剤として**ラクサー乳剤**が有効です。

発生が多いほ場には広葉雑草に効果の高い**フルミオWDG**を加用しましょう。

中期の茎葉処理剤としては、**アタックショット乳剤**が有効です。大豆  
バサグラン液剤はケイトウ類に効果が低く、効果が期待できません。

その後は、ザクサ液剤がありますが、

こちらは畝間株間処理になり、専用の機械が必要です。



# ホオズキ類…汚損粒の原因 種子の寿命 3年間 長期間出芽する



ヒロハフウリンホオズキ

## 除草剤・処理時期

- 播種後除草剤  
**ラクサー乳剤 + フルミオWDG**  
播種後出芽前
- 中期除草剤  
**アタックショット乳剤** (補正)  
本葉 2 葉期～開花期
- ザクサ液剤** (補正)  
本葉 6 ～ 8 葉期 畦間株間散布

次にホウズキ類です。

ヒロハフウリンホウズキは植物体や熟した実水分を多く含むため、茎汁や果肉が大豆の**汚損粒の発生**原因となります。

草丈は最大1mとなります。**1 個体100個以上の果実をつけます。**  
ヒロハフウリンホウズキの出芽期間は長期にわたります。  
出芽深度は3 cm程度と浅いです。**出芽年限は3年**なので、  
3年間徹底的に防除することが重要です。

播種後の土壌処理除草剤として**ラクサー乳剤**が有効です。  
発生が多いほ場には広葉雑草に効果の高い**フルミオWDG**を  
加用しましょう。

中期の茎葉処理剤としては、アタックショット乳剤が有効です。大豆バサグラン液剤はホオズキ類に効果が低く、効果が期待できません。  
その後は、ザクサ液剤がありますが、  
こちらは畝間株間処理になり、専用の機械が必要です。



# アサガオ類…帰化雑草 4種ある 出芽期間は長い



## 除草剤・処理時期

- 播種後除草剤(播種後出芽前)

**ラクサー乳剤**

**+ フルミオWDG**

- 中期除草剤

**ザクサ液剤** (補正)

本葉6～8葉期 畦間株間散布



次にアサガオ類です。熱帯アメリカ原産で4種が侵入しています。

出芽深度は10cm程度と深いこともあり、**出芽期間は長く**、大豆の播種前から9月ごろまで続きます。つる性で大豆に絡みながら生育し、**開花後1か月程度で結実**します。多発ほ場では機械収穫が不可能となります。

**出芽後2～4週間、5葉期程度で**つる化します。つる化すると除草剤の**効果もなくなる**ため、つる化までの防除が極めて重要です。

播種後の土壌処理剤として**ラクサー乳剤**とアサガオ類に効果の高い**フルミオWDG**を混用しましょう。ラクサー乳剤単用に比べ、アサガオ類の出芽数を最大50%低減することが可能です。

中期の除草ですが、**単剤での防除は難しい**ので、**2剤以上を使った体系防除が必要**です。アサガオ類でお困りの方は普及センターまでご連絡ください。

非選択性除草剤として、ザクサ液剤がありますが、こちらは畝間株間処理になり、専用の機械が必要です。

# その他留意点

## ○播種前除草剤は必須

すき込みで雑草を埋め込んで、きれいになったように見えても、表層には多くの雑草は残存している。

→**播種前には必ず非選択性除草剤**(グリホサート系等)を散布する

## ○水稻に隣接する大豆の作付

ラクサー乳剤では散布時の飛散により水稻への薬害が発生するおそれがあるので、水稻への影響の低い

**サターンバアロ乳剤**と**フルミオWDG**※を混用する

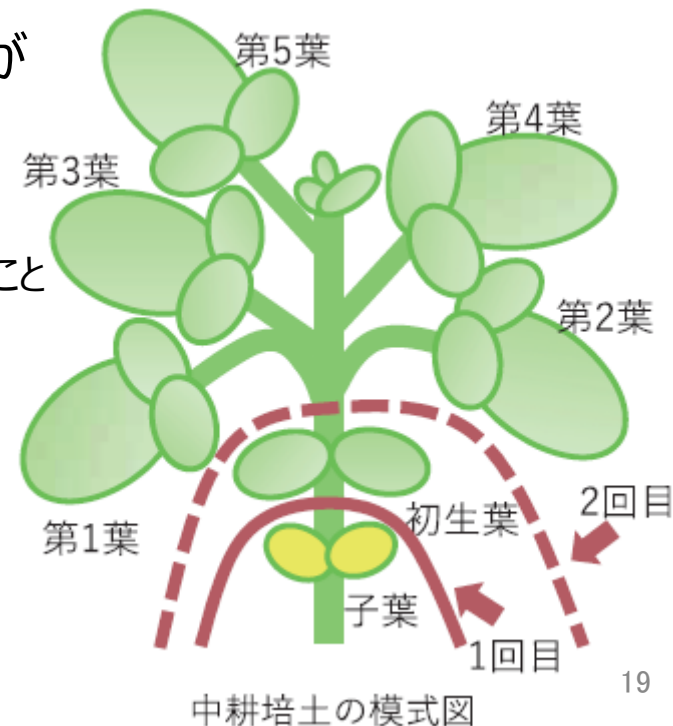
※使用後は専用洗浄剤でタンク等の洗浄を行うこと

## ○中耕培土の目安（大豆の葉齢の見方）

**本葉3～5葉期の間で1～2回行う**

※遅くなると大豆の根を痛めるので、開花期まで（播種後、約1か月以内）には終了させる

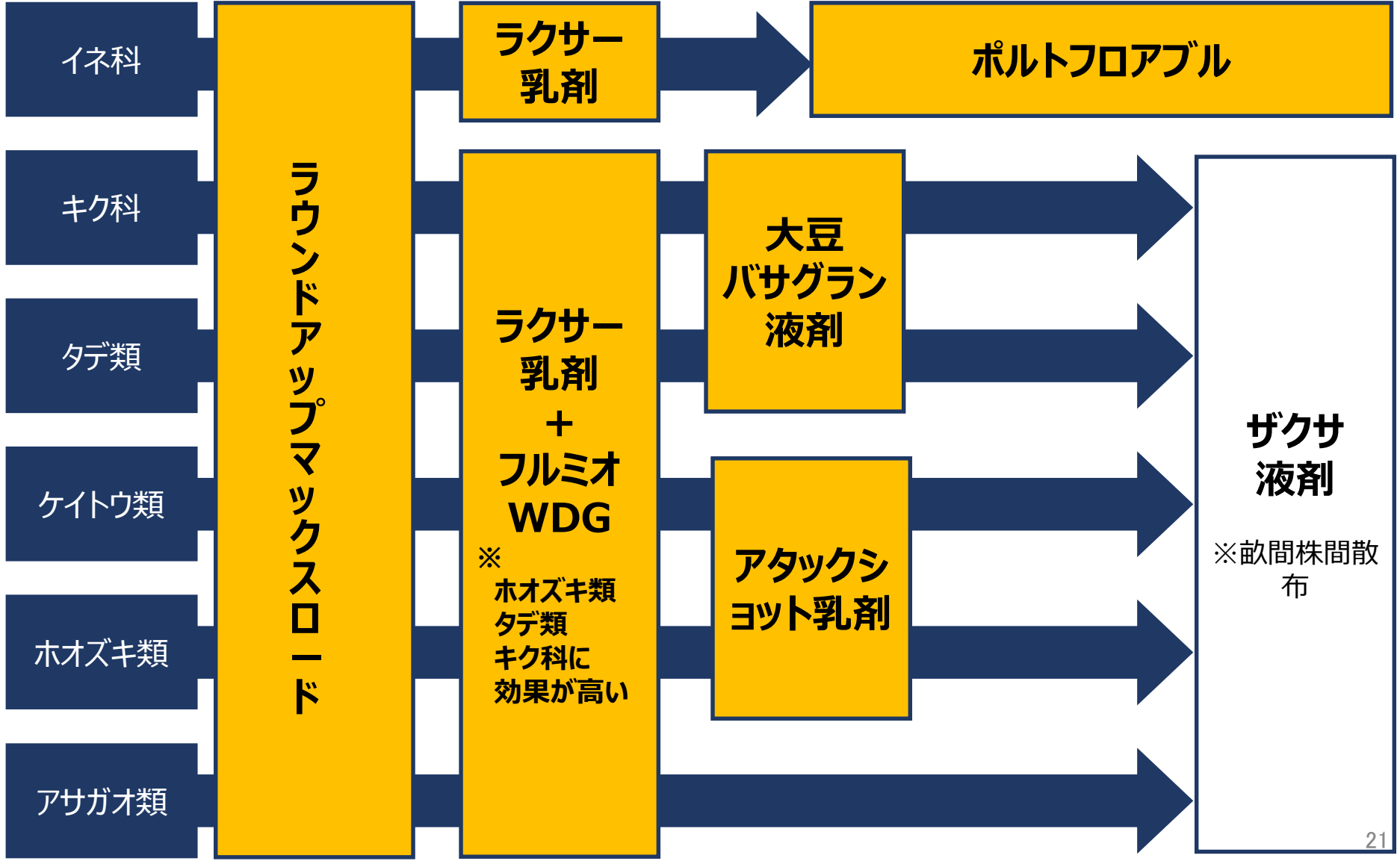
ディスク式中耕除草機は土壌が若干湿潤状態でも作業可能、中耕ローターに比べ作業速度も速い



# 防除方法まとめ



播種前                      播種後 出芽前                      本葉 2-3葉期                      中耕培土                      本葉 6-8葉期



# 使用時期別除草剤一覧①

播種前	ラウンドアップ マックスロード	耕起前又は 出芽前まで (雑草生育期)	200～ 500mL	50～100L	
	サンフーロン液剤	播種10日以前又は 出芽前まで (雑草生育期)	250～ 500mL	25～50L	
播種後処理	ラクサー乳剤	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～ 800mL	100L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果をもとめるために、播種前の碎土や整地を丁寧に行う。</li> <li>・覆土が浅いと出芽不良等の薬害を生じることがあるので、深さは必ず2～3cmとし、軽く鎮圧する。</li> <li>・粒剤は散布ムラに注意する。</li> <li>・ラクサー乳剤はクリアターン乳剤より、広葉雑草、特にホソアオゲイトウに対する効果が高い。</li> </ul>
	ラクサー粒剤		4～8kg	—	
	サターン バアロ乳剤	は種後出芽前	600～ 1000mL	100L	
	フルミオ WDG	播種後出芽前 (雑草発生前)	5～10g	100L	

## 使用時期別除草剤一覧②

生育期処理	ポルトフロアブル	イネ科雑草 3～10葉期 (収穫30日前まで)	200～300ml	50～100L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅効性でありイネ科雑草を完全に枯殺するまで～日を要する。</li> <li>・水稻には薬害があるので、周囲に水稻がある場合は薬剤が飛散しないように注意する。</li> </ul>
	アタックショット乳剤	大豆2葉期～開花期 (雑草生育期 但し、 収穫45日前まで)	30～50ml	100L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イネ科雑草には効果が無いので、イネ科雑草が混在する場合は、ポルトフロアブルを混用する(混用すると薬害が出やすくなるが、新葉には影響はなく、次第に目立たなくなる)</li> <li>・キク科、カヤツリグサ科には効果が劣る場合があるため、それらが優先するほ場での使用はさける。</li> </ul>
	大豆バサグラン液剤	大豆2葉期～開花前 広葉雑草 生育初期～6葉期 (収穫45日前まで)	100～150mL	100L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イネ科雑草には効果が無いので、イネ科雑草が混在する場合は、ポルトフロアブルを混用する(混用すると薬害が出やすくなるが、新葉には影響はなく、次第に目立たなくなる)</li> <li>・また、広葉雑草でも、エノキグサ、アカザ、シロザ、イヌビエ、ホソアオゲイトウ等には効果が劣るので、これらが優先するほ場では使用をさける。</li> </ul>
畝間処理	ザクサ液剤	収穫28日前まで (雑草生育期、 は種・定植前 又は畝間処理)	300～500mL	100～150L	大豆本葉5葉期以降、雑草生育期に畝間処理する。